

三峰山感想文

樋口 修

三峰山は、霧氷の美しさに定評がある山だ。これまで霧氷シーズンに4回登ったが、いずれも壮大な霧氷に感激したものだ。今回も霧氷を期待して申し込んだ。

ところが、2月に入ると春を思わせる暖かい日が続いた。山行前日にインターネットで御杖村のホームページをみると、「三峰山は頂上付近の一部を除き雪は融け、登山道も雪が融けてしまっている」と記載されており、美しい霧氷が見られるか少し心配になった。しかし、前日の午後から急に冷え込み、霧氷の期待が膨らんだ。

マイクロバスが榛原を過ぎても、車窓から見える山には雪は全く見る事ができず、少し心配になった。登山口の「みつえ青少年旅行村」に近づくと三峰山の山頂付近が白くなっているのが見え、安堵した。

登りは、「登り尾登山道」から山頂を目指したが、尾根筋にでもこれまでと違い、登山道には雪がなく、アイゼンは不要の状況が続いた。まるで春山に近い快適な歩きだ。ただ、尾根筋では時々冷たい強い風が吹き、衣服調整に悩まされた。

予定通り、避難小屋で昼食をとり山頂へ向かった。避難小屋から先の登山道は、前日迄の雪融け水が凍っており、少し滑るような状況だったが、頂上までアイゼンは不要だった。

三峰峠に近づくと登山道の両側に霧氷が見られるようになり、早速写真を撮った。

山頂ではこれまでとはスケールは多少劣るものの、それなりに美しい霧氷に囲まれ、霧氷はあまり期待できないと思っていただけに、感激もひとしおだった。山頂から霧氷が特に綺麗な八丁平に降りると、周りの木々に美しい霧氷ができていた。特に風の当たるところと当たらないところでは、かなり異なる霧氷が出来ており、この天気でないと思われられないような、それぞれ特徴ある美しい霧氷の芸術を見ることができた。

下りは、八丁平で、安全のためアイゼンを装着し、不動滝まで下った。不動滝は残念ながら氷瀑は見られなかった。

帰りのバスでは、Oさん際入れの「うまい日本酒とあて」で疲れをとり、満足感にひたりながら、うたたねし岐路についた。

世話役の佐坂さん、園上さん、差し入れして頂いたOさん、ありがとうございました。

